



第18回公演「ランドセルと不思議な旅」

―自治体の枠を越えた絆

仙南地域の阿武隈川（A）と蔵王連峰（Z）の環境を共有する9の自治体の小学4年生から6年生約40人で構成される「AZ9ジュニア・アクターズ」。この事業は、「演劇」という参加性の高い表現形態を生かして、積極的に地域との一体性の確立を目指すもので、平成5年にスタートした。

演出を手掛ける「SEND AI座プロジェクト」の俳優渡部ギユウさんの指導のもと、演技だけではなく、コミュニケーションの大切さを学びながら、自治体の枠を越えて深い人間的な絆と郷土の共有意識を育んでいる。

―子どもたちを支え続ける育てる会

公演で使用する子どもたちの衣装や舞台を飾る大道具・小道具は、メンバーの保護者で構成される「育てる会」が中心となって制作し、劇団の活動を支えている。

そんな保護者の活動を応援し支えているのは、演劇のプロたちや卒業生、家族などの息長い力添えがあつて実現するもので、いまにたどり付くまでに重ねた時間は計り知れない。

―ランドセルと不思議な旅

2月12日、13日の両日、大河原町の仙南芸術文化センター（えずこホール）で第18回公演「ランドセルの不思議な旅」が上演され、キャスト・スタッフを合わせ総勢170人の心を一つにした舞台が、詰めかけた約1,200人の観客を魅了した。

脚本は、仙台市の劇団「OC T/PASS」を主宰する石川裕人さん。ごみとして捨てられてしまったランドセルと文房具たち。そんなごみたちの奇想天外な旅の物語。文房具やごみたちの目線で人間と文明を物語った芝居のラストは、ステージいっぱいには映された戦場の映像。泣き叫ぶ子どもたち、逃げ惑う大人たち。ランドセルたちはそこで生きることを決めた。戦場になつていく国や貧困で教育を受けられない子どもたちが、この世界には多くいる。このラストを決めたのは、渡部さんと子どもたちだという。

子どもたちは、自分の思いを自分の言葉で語る演劇を学びながら交流を図り、自分たちがテーマや役の心理を探りながら、自ら考える力を身に付け、物質文明が行き着いた果ての社会でまっとうな心を取り戻すための旅を「表現」した。

子どもたちの全身が映し出された感動の舞台は、観客の胸を熱くし、幕が下りても歓声が上がり、会場全体を共振させた。

―新しい文化の息吹

演劇が生み出すコミュニケーションは、他者に共感する心を通じて、人と人とを結び付け、相互に理解し、尊重し合う土壌を提供する。そして、人々が協働し、共生する地域社会の基盤となるものである。

仙南地域が誇る「AZ9ジュニア・アクターズ」。卒業生は総勢200人を超え、自治体の枠を越えたこの交流と絆は、新しい文化の息吹となつている。「共同作業を通して考えて行動する力や、互いに認め合い支え合う仲間づくりは、生き方の教育。これは地域づくりにつながる」と、渡部さんは言う。

自分自身を魅力的に表現し、他者の言葉・動きを受け止めながらひとつの演劇を創っていく過程は、地域を作っていく過程と共通点が多い。

将来の仙南地域がどう育っていくのか、舞台上の子どもたちを見ると楽しみになる。仙南地域が一体となつて熱い声援を送り続けたい。

第30回公民館まつり



心をひとつに 練習の成果を披露！



―老若男女が公民館に集う

3月4日から6日までの3日間、「第30回公民館まつり」が中央公民館で開催された。歌や踊り、書道、絵画など生涯学習に取り組む方たちが1年間の成果を発表・展示するこのまつり。中央公民館の新築落成記念行事として、昭和57年に第1回が開催。それ以降、四半世紀を超えて多くの市民の皆さんが携わってきた。

ステージで発表する団体、制作物を展示する団体、それを脇で支える実行委員……。自分たちの発表はもちろん、まつり全体の成功のために、参加者自身がつりを楽しんだ。ステージで発表した団体は、発表前の緊張感と発表後のさわやかな満足感を味わい、展示した団体は、来場者との会話を楽しんだ。

子どもからお年寄りまでが一堂に集まるこのまつり。ほかのイベントにはない、まさに「市民のためのイベント」である。一つの趣味や活動に、世代の枠を越えて人が集まり、数多くの人と人をつなげている。そして、このまつりは人に目標を与えている。目標は人を動かし、人をいきいきとさせる。この活気は間違いなく、白石のエネルギ―となつている。



科学とエコと大道芸の融合に観客はくぎ付け！ ecoサイエンスショー らんま先生の実験！